

## なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

### 平成21年11月調査結果

現在の景気の現状判断は、D I 値 22.1% となり、先月に比べ 5.3% 悪化し、非常に厳しい状況に逆戻りする現状判断となっています。特に、家計動向関連の小売関連で、11.7% 急激に下げて 10.0% と、極めて厳しい状況に逆戻りし、サービス関連も 6.3% 悪化の 25.0% と悪化傾向に転じています。

次に1年前と比べた場合の景気の現状判断は、D I 値 26.8% と 1.1% の小幅な悪化に留まっていますが、サービス関連は 9.4% と大幅な悪化を示し、非常に厳しい状況になりつつある現状判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断でも、サービス関連で 15.6% と急激に下げて 21.9% と非常に厳しい状況を示し、雇用関連も 7.2% 悪化し 46.4% となり、全体では 35.7% と 4.5% 下げ、さらに厳しい現状判断が続く結果となりました。

さらに3～6ヶ月前の景気の先行き判断も、サービス関連の大幅な悪化が見込まれ、D I 値をさらに 5.1% 下げて 31.0% と厳しい先行き判断となりました。

◎全体的には、消費の低迷に加えデフレ（低価格志向）の影響により、改善傾向から悪化傾向に転じた結果になったものと思われます。さらに今後の小売関連とサービス関連の動向と、雇用関連について新卒者の就職状況などの動向を、さらに注視していく必要があると思われます。

平成21年12月14日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

# 調査の概要

## ○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

## ○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体  
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

## ○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

## ○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで

## ○有効回答率

93.3% 有効回答客体 42名

## ○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

### 1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

## 2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0  
 良くなっている      変わらない      悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4		⇒	ほんの少し景気が後退している	

となります。

## 調査の結果

### 1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状としてD I 値が22.1%ポイントと、先月に比べて5.3%ポイント悪化し、非常に厳しい状況へ戻る現状判断となっています。

内訳では、家計動向関連で小売関連がデフレの影響からか10.0%ポイントと11.7%ポイントの急激に悪化し、極めて厳しい状況へ逆戻りし、サービス関連も6.3%ポイント悪化の25.0%ポイントと非常に厳しい状況となり、飲食観光関連で2.8%ポイント改善する現状判断となっています。

また、雇用関連でも、3.6%ポイント悪化し、17.9%ポイントと非常に厳しい現状判断となっています。

表1 11月構成比

	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	2.4	11.9	2.4	38.1	45.2	0.0	22.1
家計動向関連	2.9	11.4	2.9	40.0	42.8	0.0	22.9
小売関連	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	10.0
飲食観光関連	8.3	25.0	0.0	41.7	25.0	0.0	37.5
サービス関連	0.0	12.5	12.5	37.5	37.5	0.0	25.0
雇用関連	0.0	14.3	0.0	28.6	57.1	0.0	17.9

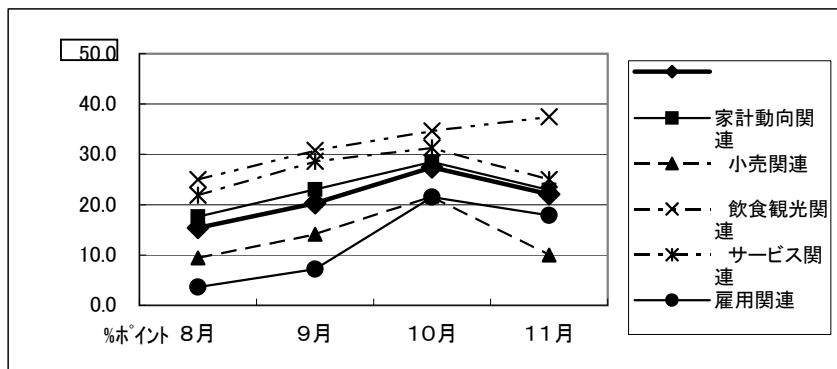
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2009	8	0.0	2.3	11.3	27.3	56.8	2.3	15.4
	9	2.3	4.7	6.9	44.2	41.9	0.0	20.3
	10	0.0	7.0	27.9	32.6	32.5	0.0	27.4
	11	2.4	11.9	2.4	38.1	45.2	0.0	22.1
	(前月差)	(2.4)	(4.9)	(-25.5)	(5.5)	(12.7)	(0.0)	(-5.3)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年				
	8月	9月	10月	11月	(前月差)
合計	15.4	20.3	27.4	22.1	(-5.3)
家計動向関連	17.6	23.0	28.5	22.9	(-5.6)
小売関連	9.4	14.1	21.7	10.0	(-11.7)
飲食観光関連	25.0	30.8	34.7	37.5	(2.8)
サービス関連	21.9	28.6	31.3	25.0	(-6.3)
雇用関連	3.6	7.2	21.5	17.9	(-3.6)



## 2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、先月と比べ1.1%が悪化して26.8%と、小幅な悪化に留まり厳しい状況が続く現状判断となっています。

内訳では、サービス関連で9.4%の悪化、小幅ながら小売関連でも1.7%が悪化して非常に厳しいとなり、飲食観光関係は逆に2.9%改善する結果となりました。

また、雇用関連3.5%改善したものの21.4%と非常に厳しい状況を示しています。

表1 11月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
合計	4.8	2.4	19.0	42.9	30.9	0.0	26.8
家計動向関連	5.7	2.9	20.0	40.0	31.4	0.0	27.9
小売関連	0.0	0.0	13.3	60.0	26.7	0.0	21.7
飲食観光関連	16.7	8.3	16.7	25.0	33.3	0.0	37.5
サービス関連	0.0	0.0	37.5	25.0	37.5	0.0	25.0
雇用関連	0.0	0.0	14.3	57.1	28.6	0.0	21.4

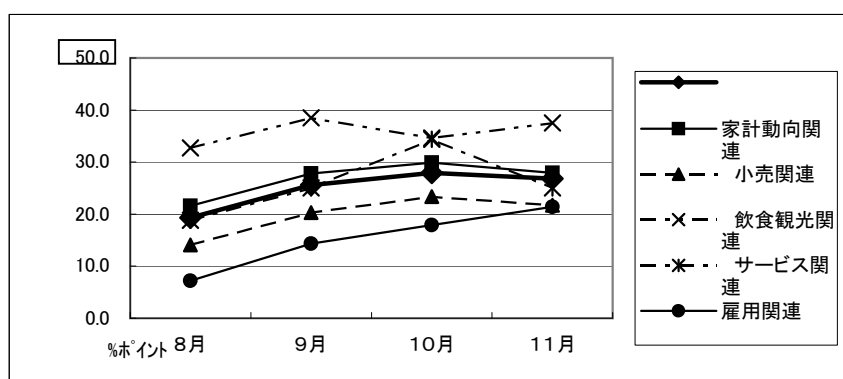
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
2009	8	0.0	9.1	13.6	22.7	54.6	0.0	19.3
	9	4.7	2.3	20.9	34.9	37.2	0.0	25.6
	10	0.0	7.0	27.9	34.9	30.2	0.0	27.9
	11	4.8	2.4	19.0	42.9	30.9	0.0	26.8
	(前月差)	(4.8)	(-4.6)	(-8.9)	(8.0)	(0.7)	(0.0)	(-1.1)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年				
	8月	9月	10月	11月	(前月差)
合計	19.3	25.6	27.9	26.8	(-1.1)
家計動向関連	21.6	27.8	29.9	27.9	(-2.0)
小売関連	14.1	20.3	23.4	21.7	(-1.7)
飲食観光関連	32.7	38.5	34.6	37.5	(2.9)
サービス関連	18.8	25.0	34.4	25.0	(-9.4)
雇用関連	7.2	14.3	17.9	21.4	(3.5)



## 2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、先月と比べ4.5%ポイント下げ35.7%と厳しい状況という現状判断となりました。

原因としては、サービス関連が来客数の低下が原因で15.6%ポイントと大幅に下げ21.9%と非常に厳しい状況となり、飲食観光関連も2.7%ポイント下げたためと思われます。小売関連は1.6%ポイントの小幅な改善となっています。

また、雇用関連は7.2%ポイント悪化し46.4%とやや厳しい状況の戻り結果となっています。

表1 11月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	2.4	9.5	33.3	38.1	16.7	0.0	35.7
家計動向関連	2.8	8.6	28.6	40.0	20.0	0.0	33.6
小売関連	0.0	0.0	46.7	46.7	6.6	0.0	35.0
飲食観光関連	8.3	16.7	16.7	41.6	16.7	0.0	39.6
サービス関連	0.0	12.5	12.5	25.0	50.0	0.0	21.9
雇用関連	0.0	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	46.4

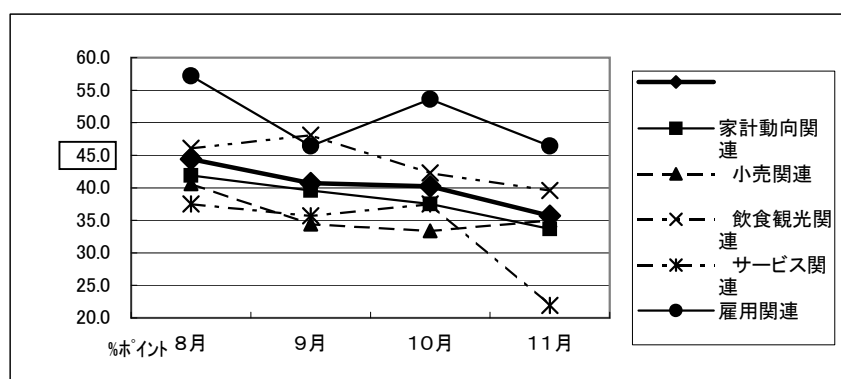
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2009	8	0.0	20.5	47.7	20.5	11.3	0.0	44.4
	9	2.3	11.6	48.9	20.9	16.3	0.0	40.7
	10	2.4	9.3	46.5	30.2	11.6	0.0	40.2
	11	2.4	9.5	33.3	38.1	16.7	0.0	35.7
	(前月差)	(0.0)	(0.2)	(-13.2)	(7.9)	(5.1)	(0.0)	(-4.5)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年				
	8月	9月	10月	11月	(前月差)
合計	44.4	40.7	40.2	35.7	(-4.5)
家計動向関連	41.9	39.6	37.5	33.7	(-3.8)
小売関連	40.6	34.4	33.4	35.0	(1.6)
飲食観光関連	46.1	48.1	42.3	39.6	(-2.7)
サービス関連	37.5	35.7	37.5	21.9	(-15.6)
雇用関連	57.2	46.4	53.6	46.4	(-7.2)



## 2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、来客数の減少が起因して「来客数の動き」が40.0%、必要なもの・安いものしか買わない状況から「お客様の様子」が46.7%と高くとなっています。

飲食観光関連では、来客数の減少から「来客数の動き」が91.7%と先月に比べ、さらに突出して大きくなっています。

サービス業関連でも同じく、来客数の減少から「来客数の動き」が62.5%と大きくなっています。

次に、雇用関連では、有効求人倍率などから「求人数の動き」が71.4%と高くと突出して高くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	62.9	28.6	22.9	34.3	0.0	5.7
小売関連	40.0	33.3	33.3	46.7	0.0	6.7
飲食観光関連	91.7	33.3	16.7	25.0	0.0	0.0
サービス関連	62.5	12.5	12.5	25.0	0.0	12.5
	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	71.4	42.9	28.6	14.3	28.6	0.0

※複数回答による割合

## 3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについても、先月に続きさらに5.1%ポイント下げて31.0%ポイントと厳しさを増す予想となっています。

特にサービス関連では、先月の15.6%ポイントを上回る18.8%ポイントの急激な悪化が見込まれ、15.6%ポイントと非常に厳しい予想となっています。飲食観光関連でも5.1%ポイントの下げを見込み、今後の動向を注視する必要があります。

また、雇用関連でも、3.5%ポイント悪化しの42.9%ポイントとやや厳しい状況が予想されています。

表1 11月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	0.0	7.1	31.0	35.7	23.8	2.4	31.0
家計動向関連	0.0	5.7	25.7	40.0	25.7	2.9	28.6
小売関連	0.0	0.0	33.3	46.7	13.3	6.7	31.7
飲食観光関連	0.0	16.7	25.0	33.3	25.0	0.0	33.4
サービス関連	0.0	0.0	12.5	37.5	50.0	0.0	15.6
雇用関連	0.0	14.3	57.1	14.3	14.3	0.0	42.9

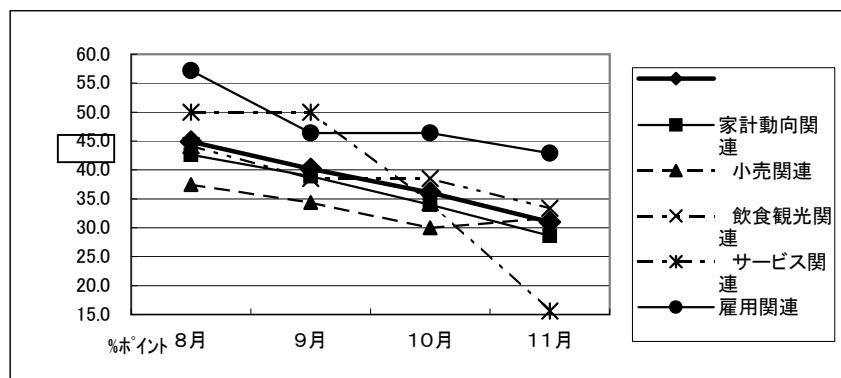
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2009	8	2.3	18.2	47.7	15.9	13.6	2.3	44.9
	9	0.0	14.0	41.9	34.8	9.3	0.0	40.2
	10	0.0	7.0	46.5	30.2	16.3	0.0	36.1
	11	0.0	7.1	31.0	35.7	23.8	2.4	31.0
	(前月差)	(0.0)	(0.1)	(-15.5)	(5.5)	(7.5)	(2.4)	(-5.1)

表3 景気の先行き判断D I 値

	2009年				
	8月	9月	10月	11月	(前月差)
合計	44.9	40.2	36.1	31.0	(-5.1)
家計動向関連	42.6	38.9	34.0	28.6	(-5.4)
小売関連	37.5	34.4	30.0	31.7	(1.7)
飲食観光関連	44.2	38.5	38.5	33.4	(-5.1)
サービス関連	50.0	50.0	34.4	15.6	(-18.8)
雇用関連	57.2	46.4	46.4	42.9	(-3.5)



景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	3ヶ月前	1年前				
家 計 動 向 関 連	良くなっている	良くなっている	レストラン	来客数の動き	・当施設の特別な理由⇒新そばの販売について、ラジオ、テレビ、新聞等（メディア）で、例年以上に取り上げて頂いたために、来客数が伸びました。	
	やや良くなっている	やや良くなっている	スナック	来客数の動きとお客様の様子	・仕事が少しずつ、戻って来ていると、お客様の会話より、うかがえます。今月に関しては、来客数が多かったです。	
		変わらない	旅館	来客数の動き	・紅葉狩のシーズンで他県からの宿泊客有り、観光会社のツアー等もあった。	
		やや悪くなっている	福祉施設	来客数の動き	・エコカーとかエコポイントの延長により、売り上げが伸びていると聞きました。	
	変わらない	変わらない	小売店	お客様の様子	—	
		変わらない	自動車販売	来客数の動きとお客様の様子	・とにかく来店されるお客様の数が少ない。 ・お客様が数店まわられて当社も見積をお出ししますがなかなか成約までいかない。とにかく安くしないと売れない。	
		変わらない	タクシー運転手	来客数の動き	・景気も影響していると思いますが、自社のような業界は町自体にあるお店や病院の来客数もしくは、患者数によって左右される。1日のすごく多い時があれば、極端に少ない時もある。	
		やや悪くなっている	商店街関係者	お客様の様子	・来店客数の減少もあるが、必要なものしか買わない傾向が強い。	
		やや悪くなっている	商店街関係者	来客数の動き	・売れた月と、売れない月がありすぎる。	
		やや悪くなっている	小売店	販売量の動きとお客様の様子	・販売量の低迷が見られる。	
		やや悪くなっている	小売店	来客数の動き	・新しい物を買うより、いままでの物を治してできるだけ使うという傾向が著しい。	
		悪くなっている	小売店	販売量と単価の動き	・余分な商品を一切買わない傾向。	
		悪くなっている	ホテル	来客数の動き	・昨年に比べツアーキャンセルが多い。	
		悪くなっている	旅館	来客数と単価の動き	・特に年配の方の動きが悪い。	
		やや悪くなっている	良くなっている	観光案内所	来客数と単価の動きとお客様の様子	・オリジナル商品の人気の定着。
			変わらない	レストラン	来客数と販売量の動き	・単価の小さい買い求めが以前と変わらず多くなっている。 ・企業の使用が、以前と比べ少なくなっている。
			変わらない	金融機関	お客様の様子	・建設業において、公共工事の発注が年度の前半に前倒し発注され、工事の確保ができていたが、現在は工事の確保に苦慮している。
	変わらない		金融機関	来客数、単価の動きとお客様の様子	・金利アップ商品を出しても、反応が少ない。貸金の回収率が悪い。新築物件の単価が下がっている。（給与所得、収益の低下等）	
	やや悪くなっている		小売店	お客様の様子	・お客様や問屋さんの話しから、景気の良い話しは聞かれない。	
	やや悪くなっている		小売店	単価の動きとお客様の様子	—	
やや悪くなっている	小売店		来客数と販売量の動き	—		

	やや悪くなっている	小売店	単価の動き	—	
	やや悪くなっている	スーパー	販売量と単価の動き	・販売量の動き、特売品だけが売れる。単価の動き、デフレ状態。	
	やや悪くなっている	道の駅	販売量の動き	・季節物（果物）の予約販売等、動きがにぶい。	
	やや悪くなっている	道の駅	来客数の動き	・1年前は4～9月が少なく、10～3月で増えた。今年は全く反対の状況。青果物のデフレ傾向が見られる。	
	やや悪くなっている	飲食店	来客数の動きとお客様の様子	・40～50才台の来客数の減少。（働き盛りの方々）	
	悪くなっている	商店街関係者	マスメディア	・円の高騰、大手マンションメーカーの倒産（穴吹）、ビジョンの見えない政権（政策）デフレ等で。	
	悪くなっている	スーパー	来客数の動きとお客様の様子	・客数の減少、売り上げ数の減少。	
悪くなっている	やや悪くなっている	理容室	来客数の動き	—	
	悪くなっている	小売店	来客数、販売量、単価の動き	—	
	悪くなっている	レストラン	来客数、販売量、単価の動き	・客単価、来客数の低下。	
	悪くなっている	旅行代理店	来客数の動き	・今年はまだまだインフルエンザの影響でキャンセルなどあります。	
	悪くなっている	美容室	来客数の動き	・客が少ない。	
	悪くなっている	IT関連会社	販売量の動き	・極端に悪くなって来た。仕事が激薄、先が見えない、広告物が益々減る傾向にある。	
	悪くなっている	タクシー運転手	全てにあてはまる状態	・回りも変わらない。	
雇用関連	やや良くなっている	悪くなっている	自治体労働政策担当	求人数、求職者数と採用者数の動き	・有効求人倍率の推移 H20. 10月 1.45 H21. 8月 0.52 H21. 10月 0.61
	変わらない	変わらない	学校就職担当	採用者数の動き	・地元製造業の新卒求人がゼロの状況。
		やや悪くなっている	職業安定所	求人数、求職者数の動きと周辺企業の様子	・新規求職は、事業所閉鎖による大量離職者があったが、20%台の増加に留まった。
		やや悪くなっている	労働相談所	求人数の動き	・10月の有効求人倍率、中津川で0.61、微増ではありますが低位安定のままである。
	やや悪くなっている	悪くなっている	学校就職担当	求人数の動き	・新規の求人がほとんど来ない、地域の職人さん達と話したも仕事がないという話題でもちきりである。
		やや悪くなっている	労働金庫	雇用形態と周辺企業の様子	・預金を引出して生活費に当てる状況が伺える。
		やや悪くなっている	人材派遣会社	求人数と求職者数の動き	・年末をむかえ、求人・職の動きが最悪の状況、特に求職者がここにきて皆無…。雇用保険受給中又は地元出身者が激変（－）当該地区の製造を中心とした非正規雇用（派遣）の70%が地方出身者…殆んど派遣解雇。

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家	やや良くなる	スナック	・県外の社員が仕事で、中津川に来ているようで、会話を聞くところによると、仕事が3月ぐらいいままでいっぱいだとの事です。お客様が、口々に悪い悪いと言っていたのが、今はあまり聞かれません。
		旅館	・期待から。
計 動 向 関 連	変わらない	商店街関係者	・来客数が少なくなる。
		小売店	・景気上昇の傾向が、見えてこない感じられない。
		小売店	－
		スーパー	－
		自動車販売	・売上が昨年比大幅にダウンしている。
		道の駅	・何もしなければやや悪くなるだろうが、冬場のイベントを店で行って、集客する予定なので、全体として変らないだろう。
		ホテル	・しばらくマーケットが動かないと思われる為。
		旅行代理店	・バスの稼動も伸び悩む中、収入もあがらず。あまり変化はないかと…。
		タクシー運転手	・やはり町自体に活気があればタクシーの利用されるお客様も在るかと思えます。坂下という町は日曜日、ほとんどの店が休業されるので、日曜日の売上が極端に少ないです。町に活気づくなにか、あればいいと思えます。
		やや悪くなる	商店街関係者
小売店	・日本の人口減少、宇宙自然の法則です。国内では、これ以上良くなる事はないでしょう。今までと比べるより、今現状で運営できるように企業努力が必要と思えます。		
小売店	・ボーナス減、消費者心理の悪化、政府の無策、デフレ。		
小売店	・大半の企業の今冬のボーナスは減少すると思われ、消費者が景気の悪さを実感し、よりさいふのひもがかたくなると思う。		
小売店	－		
小売店	－		
スーパー	－		
道の駅	・明るくなる材料が見当たらない。		
飲食店	・年明けから4月ごろまで出費が各家庭で多い、いつもの年より厳しいのでは。		
レストラン	・低価格感があり、今後客単価の低下が予想され、また、当月の反動が気になる。		
観光案内所	・冬期に入り観光客が減少する。正月明けは例年売上げが減少気味傾向である。		
金融機関	・建設業では、景気の低迷の影響から住宅関連等の民間工事は少なくなっており経営環境の悪化がすすんでいるところ、公共工事の前倒し発注による年度後半の発注額への影響を不安視している企業が多い。		

		金融機関	・新築住宅、工事等が少ない。年代層が上っている。
		福祉施設	・円高になっているので、その影響が出てくると思います。
悪くなる		商店街関係者	・輸出産業の業績の悪化とデフレの進行による賃金格差の拡大。（雇用情勢の更なる悪化。）
		商店街関係者	・給料やボーナスが減給されれば自然とお金を使う額も減って来てこちらまでは回ってこない。
		レストラン	－
		レストラン	・マスコミ論調が悪影響すると思います。株価急落、急速な円高、現政権の経済対策不透明など。
		旅館	・冬期は観光客が減、4月以降期待。
		美容室	・良くなる要素がない。
		理容室	－
		I T 関連会社	・情報通信（I T）系の需要はあるが、一般の広告、イベント企画、印刷系が11月からピタッとなくなった。
		タクシー運転手	・年末年始もこの状態では、良くならず、生活は益々苦しくなるばかりです。
雇用 関 連	やや良くなる	自治体労働政策担当	・企業の求人数が増加に転じており、雇用状況は緩やかに改善すると思われる。
	変わらない	職業安定所	・求人倍率はわずかながらの回復を見せているが、大きく改善される要素が見当たらない。
		労働金庫	・好転する材料や要素が見当たらない。
		学校就職担当	・現在、進路先未決定者が3名いるが、応援できる製造業企業が見当たらない。
		労働相談所	・ボーナスの減額で勤労者収入が減額となり、個人消費が伸びない。
	やや悪くなる	学校就職担当	・自動車のエコカー減税やエコカー補助金制度が来年、3月31日で終了すれば、さらに経済はおちこむだろう。
悪くなる	人材派遣会社	・エコカー減税で儲かる業種が脚光を集めたが、今後の見込が不透明、年末から年度末にかけて日を追って厳しくなっていくと思われる。	